

# 岡山大学構内遺跡調査研究年報 2

昭和 59 年 度

岡山大学埋蔵文化財調査室

# 岡山大学構内遺跡調査研究年報 2

昭和 59 年 度

岡山大学埋蔵文化財調査室

## 序 文

岡山大学に埋蔵文化財調査室が設置されて早くも3年目を迎えることになりました。

当初は運営や研究活動にややもすると不十分な面が見られましたが、今ではそれらはかなり克服され、学内における土木工事の監査と埋蔵文化財の保護・調査に大きな役割を担うようになったといっても過言ではありません。もちろん学内の諸工事に際しての監査体制が可能になったことは、調査室の独力の成果ではなく、学内外の諸機関の理解と協力があったからに他なりません。

このたび、一昨年7月から進めていた鹿田遺跡AU～BD28～39区（外来棟改築予定地）の発掘調査を終了しました。その結果、5枚の生活面が明らかとなり、それにともない検出された遺構の数と発見された遺物の量は膨大なものとなりました。それらの整理と分析を通じて本遺跡の性格と構造を解明し、わが国の歴史の中に位置づける作業は、これから始まる訳です。また、大学における埋蔵文化財の調査研究の意義も合わせて再認し、今後の調査室の調査・研究活動について学内外のいっそうの理解を得るための努力をしたいと思います。

今回の調査・研究に多くの助言と協力を頂いた岡山県教育委員会文化課、岡山県史編纂室、岡山市教育委員会文化課、岡山大学埋蔵文化財保護対策検討専門委員会、岡山大学事務局および発掘調査に援助を願った岡山大学文学部考古学研究室や調査補助員の諸氏ならびに作業員諸氏に厚く御礼を申し上げます。

1985年3月30日

岡山大学埋蔵文化財調査室長

近 藤 義 郎

## 例 言

- 1 本年報は岡山大学構内において昭和59年4月から同60年3月末日までに実施した埋蔵文化財の調査と保存、および岡山大学埋蔵文化財調査室の活動成果をまとめたものである。
- 2 岡山大学構内の埋蔵文化財の調査に際しては、国土座標を測量等の基準としているが、岡山大学津島地区と同鹿田地区ではその設置基準を次のように定めた。
  - 1) 岡山大学津島地区では、国土座標第5座標系 ( $X = -144,500$ ,  $Y = -37,000$ ) を基点とし、一辺50 m の方形の地区割をして遺跡の位置を表示した。また、津島キャンパスは調査の便宜上、津島北地区と同南地区に二分する (図版2)。
  - 2) 岡山大学鹿田地区では、国土座標第5座標系 ( $X = -149,800$ ,  $Y = -37,400$ ) を基点とし、座標軸を  $N15^{\circ}E$  に振ったものを構内座標とする。地区割は一辺5 m の方形を用い、調査に対応した (図版1)。
  - 3) 本文中で用いる方位は鹿田地区は真北を、津島地区では磁北を使用している。
- 3 岡山大学構内及び関連施設内の遺跡の名称は、農学部演習林内に分布する古墳群等の周知の遺跡の場合、そのまま踏襲する。津島地区構内で新たに発見された遺跡は、遺存する小字名を用いるか、津島岡山大学構内遺跡と仮称し、地点ごとに任意の記号を用いて示す。また、鹿田地区は全域をこれまで用いられてきた「鹿田遺跡」を使用する。
- 4 本書で使用した遺構の略号は次のとおりである。SB: 住居址・掘立柱建物, SE: 井戸・野壺, SK: 土墳墓・土墳, SD: 溝, SA: 柵状遺構・柱穴列, SX: その他
- 5 遺構の番号は調査時の仮称のままである。
- 6 遺構・遺物の実測と整図は青木進次郎、家田淳一、池上博、今津啓子、大久保徹也、小池幸夫、駒井正明、栄一郎、鈴木英男、鈴木康之、高井健司、田中裕介、千葉豊、新納泉、八谷隆生、馬場洋、平井典子、松井潔、宮原博幸、安井ともえ、山田雅子、山本悦世、吉留秀敏、力竹孝典がおこなった。遺物の撮影は栄一郎が担当した。
- 7 本文は栄一郎、山本悦世、吉留秀敏が各章を分担執筆した。執筆者名は各章の末尾に記した。
- 8 編集は近藤義郎の指導のもとに吉留秀敏、山本悦世、栄一郎が当たった。

# 岡山大学構内遺跡調査研究年報 2 昭和59年度

## 目 次

### 第Ⅰ部 岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項

1 岡山大学施設設定委員会埋蔵文化財保護対策検討専門委員会規程	1
2 岡山大学埋蔵文化財調査室設置要項	2
3 昭和59年度普及活動	2

### 第Ⅱ部 昭和59年度岡山大学構内遺跡発掘調査報告

第1章 昭和59年度岡山大学構内遺跡調査の概要	3
第2章 鹿田遺跡AU～BD28～39区の発掘調査概要	5
1 調査の経過	5
2 層序	5
3 遺構の概要	5
4 小結	19
第3章 昭和59年度岡山大学構内の試掘・立合調査報告	22
第4章 昭和59年度構内遺跡調査のまとめ	26

## 挿 図 目 次

図1 南北断面土層図	5
図2 弥生～古墳時代遺構全体図	6
図3 竪穴式住居址S B23	7
図4 S B23出土遺物	8
図5 竪穴式住居址S B16	9
図6 S B16出土遺物	10
図7 竪穴式住居址S B24	11
図8 S B24出土遺物	11

図9	井戸S E22	12
図10	S E22出土遺物	13
図11	井戸S E25	14
図12	S E25出土遺物	15
図13	井戸S E50	16
図14	S E50出土遺物	17
図15	土壌S K122	18
図16	S K122出土遺物	18
図17	土器棺S K1	19
図18	S K1出土遺物	20
図19	弥生～古墳時代主要遺構変遷模式図	21
図20	津島地区立合調査地点位置図	22
図21	南宿舍合併処理槽関係配水管埋設予定地の平面図と断面土層図	23
図22	出土遺物	23
図23	津島地区立合調査地区模式土層柱状図	24
図24	鹿田遺跡B T30区試掘調査地点東側土層断面図と関連の出土遺物	24

## 図 版 目 次

図版1	鹿田地区全体図と調査地点
図版2	津島地区全体図
図版3	鹿田遺跡A U～B D28～39区
1	A W～B A36～39区付近（南から）
2	A U～B A28～32区付近（東から）
図版4	鹿田遺跡A U～B D28～39区
1	竪穴式住居址S B23（東から）
2	S B23出土遺物
図版5	鹿田遺跡A U～B D28～39区
1	竪穴式住居址S B16（東から）
2	竪穴式住居址S B24（西から）
図版6	鹿田遺跡A U～B D28～39区
1	井戸S E22（西から）
2	井戸S E22（西から）
図版7	鹿田遺跡A U～B D28～39区
1	井戸S E25（東から）
2	S E25出土遺物
図版8	鹿田遺跡A U～B D28～39区

- 1 井戸 S E 50 (北から) 2 S E 50出土遺物

図版 9 鹿田遺跡 A U ~ B D 28 ~ 39区

- 1 土壙 S K 122 (北から) 2 土壙 S K 122 (真上から)

図版 10 鹿田遺跡 A U ~ B D 28 ~ 39区

- 1 土器棺 S K 1 (南から) 2 S K 1 出土遺物

図版 11 津島南地区 B I 16 ~ 19, B J 18・19区

- 1 立合調査地点 (東から) 2 立合調査地点 (西から) 3 土壙検出状況 (真上から)  
4 土壙調査状況 (西から)

